



イラストレーター・造園家
大野八生

教科書の表紙に込めた思い

子どもたちとさまざまな動物たちがのびやかに描かれた、明るく元気な表紙——好評をいただいた現行版に引き続き、新しい教科書の表紙を描いてくださったのは、イラストレーターの大野八生さん。造園家としても活動されている大野さんに、新しい表紙に込めた思いについて、お話を伺いました。

文：宇宿真理恵 写真：鈴木俊介

——新しい教科書を手にする子どもたちに、どんなところを楽しんでほしいですか。

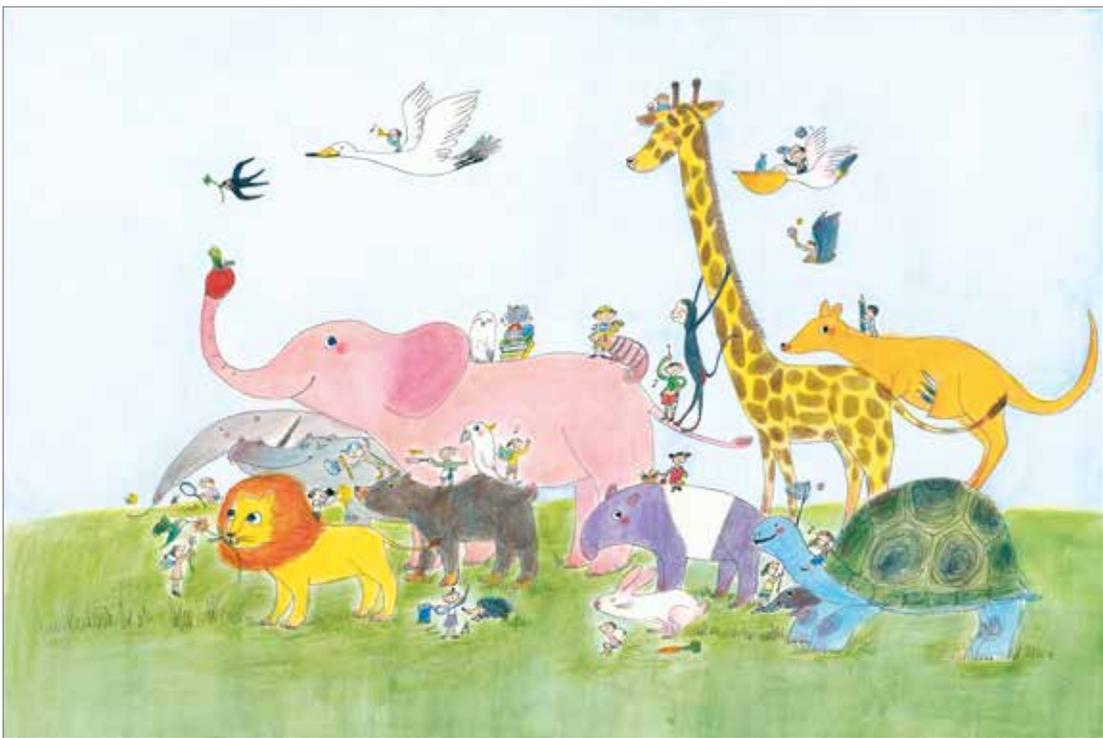
光村図書の教科書には一冊ずつ、「かざぐるま」「たんぼぼ」など、タイトルが付いていますよね。今の表紙と同じように今回も、ストーリーのある絵にしたかったので、そのタイトルを大きにしない程度にどこかしらに組み込みました。見る子どもたちのイメージに任せたいので、そうきっちり描き込んではいませんが。表紙紙と裏表紙合わせて、さまざまな見方、楽しみ方ができるように工夫したつもりです。

よく見てみると、「あっ、こんなところにこんな動物が！」とか、「おや、ここにも何か隠れている！」とか。そういうちょっとしたストーリーを見つけて、楽しんでもらえたらいいですね。

——六年の表紙は、一年から五年の表紙で描かれた動物たちがすべて登場する、オールスターバリエーションになっていますね。

そうですね。わたしもそうでしたけど、六年生って、それぞれに好みがはっきりしてきたり自分のやりたいことが見えてきたりする時期だと思うんです。中学校や高校に進むと考えが変わったり、「やっぱり無理かな」と思ったり。そういうことを繰り返さ

▼新しい『国語』教科書6年の表紙に使われているイラスト。



返しながら大人になっていくわけですが、この年頃にしかない「自分はこれが好きだ」という直感のようなものをずっともち続けていってもらいたいなと、そんなふうに思っ、音楽や読書やスポーツ、いろいろな興味や関心をそれぞれの動物に託して絵にしました。

わたし、ネイティブアメリカンの、「すべての生き物に神様が宿っている」という考え方がとっても好きなんです。彼らは、フェティッシュという、動物や植物をかたどったお守りみたいなものを持っているんですが、それぞれに特別な意味や力があるんです。そんなこともイメージしましたね。もともと動物が大好きなんです。だけど、庭師の仕事もしているせいか、植物のイメージが強いです。動物を描くお仕事の機会ってあまりないんです。だから今回は、わたしの好きな動物をワーツと挙げて、たっぷり描かせていただきました。

——新しい教科書の表紙の中で、大野さんのお気に入りの一枚はどれでしょう。そうですね……難しい。強いて挙げるなら、ハミングバードがいる三年の下巻で

しょうか。あの、実は裏表紙に、こっそりというわけでもないんですけど、オオスカシバっていう蛾の仲間を描いたんです。

以前、ある方が「うちにはハミングバードが本当によく来るのよ」とお話しされていたんですが、ハミングバードって、日本にはいないんです。実は、オオスカシバも空中で止まりながら花の蜜を吸うので、羽の動かし方なんか、本当にハミングバードにそっくりなんです。だからそのとき、「あっ、絶対これを見たんだな」とピンと来ました(笑)。本州より南に住んでいる人は、きっと一度は見たことがあると思います。

——そんな小さな虫や動物もこっそり描いているので、ぜひ探してみてください。子どもたちの反応が楽しみです。ありがとうございます。

おの・やよい

一九六九年、千葉県生まれ。園芸好きの祖父の幼い頃から植物に関心し、植物に関わるさまざまな仕事を経て造園家として独立。そのついで、女子美術短期大学卒業後に描き続けてきたイラストが評価され、雑誌、書籍などでイラストレーターとして活躍中。著書に、絵と文を手がけた絵本『わのこたち』『じょうろさん』(ともに権威社)などがある。



▼3年下の表紙に使われているイラスト。

